

Pro-gastrin-releasing peptide as a marker for the Ewing sarcoma family of tumors

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2022-12-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 本多, 洋介 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004254

論文審査の結果の要旨

ユーイング肉腫ファミリー腫瘍 (ESFT) は小円形細胞からなる高悪性腫瘍であるが、ときに臨床像や病理所見が ESFT と類似する腫瘍との鑑別が問題になる。ESFT に対する特異的な腫瘍マーカーはこれまで明らかでないが、ガストリン放出ペプチド (GRP) が ESFT のマーカーとなる可能性が示唆されている。GRP は血中では不安定であるため、申請者は GRP の前駆体である ProGRP に着目し、ESFT 症例における血清 ProGRP 値の腫瘍マーカーとしての有用性を検討した。

2002 年から 2016 年に治療した ESFT 患者 16 例、および対照群として臨床像または病理所見が ESFT と類似する腫瘍患者 42 例を対象とした。治療前後の血清 ProGRP 値、神経特異エノラーゼ (NSE) 値を測定し、測定値と腫瘍体積との関連を解析した。さらに免疫組織染色法を用いて腫瘍細胞内における ProGRP の発現を検討した。本研究は静岡県立静岡がんセンター臨床研究倫理審査委員会の承認を得て施行した (承認番号 T26-33)。

結果として、治療開始前の血清 ProGRP 値は、ESFT 群の 16 例中 8 例で高値を示したのに対し、対照群 42 例では軽度上昇を 2 例のみに認め、両群間に有意差を認めた。また ESFT 群で ProGRP が上昇していた 8 例では、その値と腫瘍体積の間に正の相関がみられた。血清 NSE 値も ESFT 群と対照群で有意な差を認めしたが、ProGRP の方がより鋭敏なマーカーと考えられた。治療経過中に ProGRP を複数回測定しえた症例では ProGRP は腫瘍体積の増減をよく反映していた。ESFT 群で ProGRP の免疫組織染色陽性症例は全例血清 ProGRP 値が上昇していた。

本研究において、血清 ProGRP 値が ESFT の診断および治療効果を判断するうえで有用なマーカーになる可能性が提唱された点を審査委員会は高く評価した。以上により、本論文は博士 (医学) の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 竹内 裕也

副査 岩下 寿秀

副査 山内 克哉